

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立深谷高等学校)

目指す学校像	学力の向上、部活動の振興に重点を置き、地域から信頼される進学校を目指す。 文武両道の精神に基づく心豊かな生徒を育成する。
--------	---

重点目標	1 確かな学力の定着を目指し、学習指導の工夫と主体的学習態度の育成を図る。 2 生徒一人一人の進路実現を叶える支援の充実を図る。 3 基本的生活習慣の確立を図り、部活動、学校行事の活性化を支援し、豊かな心を育む。 4 保護者・地域との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		実 施 日 令 和 年 月 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	【現状】 入学してくる生徒の学力や学習意欲に幅がある。 【課題】 個に応じた学習指導、生徒の主体的な探究活動、資格取得等により、学習意欲と基礎学力を向上させ、自己肯定感を高める必要がある。	・授業の工夫改善に努め、生徒の学習意欲を喚起させ、基礎学力の定着・学力の向上を目指すとともに、感染予防対策の徹底による教育活動の実施	①習熟度別授業、少人数授業等によるきめ細かな授業、学習サポーター制度等により、一層の基礎学力の定着を図る。 ②教職員研修会、校外研修会への参加、授業公開期間の研究授業、教員相互による授業見学等とおして授業の工夫改善を図り、生徒のやる気に火をつける。 ③各種検定試験の活用で、学力の伸長を目指す。 ④ICT機器(プロジェクタ、タブレット等)による授業を推進し、教育支援ツールClassiの効果的活用を図る。 ⑤「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、感染予防対策を踏まえた上でのグループワーク、ペアワーク等により「学びの改革」を推進する。	①欠点保有者、成績不振に関わる転退学者の減少 ・評価「授業が分かりやすい」のポイントの向上 ②研修会の開催・参加、研究授業への参加 ③検定試験の受検と結果 ④ICT機器の授業等での活用とBYODへの対応 ⑤アクティブ・ラーニングの授業の実践				
2	【現状】 進路希望が多様で、進学(大学短大、専門学校等)・就職を希望する生徒がバランスよく存在する。 【課題】 早い段階から具体的な将来の進路目標を持たせる仕掛けが必要である。進学後、就職後に対応できる学力をつける必要がある。	・学校と家庭の連携を密にして、組織的な進路指導により、生徒の進路希望の実現	①二者・三者面談を実施し、生徒に寄り添い一人ひとりの進路意識の向上を図る ②各学年が進路指導部と連携し、生徒の実態に合わせた進路行事を実施する。 ③キャリアパスポートの活用、生徒の振り返り活動等で、生徒一人ひとりに明確な進路目標を持たせる。 ④ハローワーク等の外部機関と連携した企業の求人開拓、新規配置となったJSTの活用により、生徒の就職活動を支援する。 ⑤学校推薦型選抜希望者への支援活動を行う。	①二者・三者面談の実施 ①②③生徒・保護者の学校の進路指導の取組の満足度向上 ④学校斡旋による就職志望者の希望就職先内定取得率 ⑤生徒が希望する学校との情報交換の実施				
		・特進クラスの活性化・特色化	①4年制大学・短期大学及び医療系学校等への進学希望者に、質の高い授業を実践し、きめ細かな学習指導を行う。 ②一般入試でも大学等に合格できる力を身に付けさせる。 ③平日補習・土曜補習および長期休業中の補習の充実を図り、学習を支援する。	①特進クラス生徒保護者における学校の進路指導取組満足度の向上 ②一般入試受験者、大学入学共通テスト出願者の定着 ③土曜補習の整備 補習に対する満足度の向上				
3	【現状】 基本的生活習慣の定着により、生徒は落ち着いてきた。大きな乱れはなくなってきた。 【課題】 整容、時間厳守、挨拶励行等の更なる徹底が必要である。場面によっては、生徒が落ち着いて学校生活を送ることができるよう家庭への支援が必要である。	・基本的生活習慣の確立と学校行事や部活動とおして、豊かな心の育成	①正門指導・登校指導を実施し、整容指導や自転車の乗り方指導を行う。 ②学年・授業・ホームルーム等で全教員が一体となって組織的な挨拶、整容、遅刻指導の徹底を図る。 ③生徒の活躍を評価し、自己肯定感を高める指導を行う。 ④部活動や委員会活動を一層活性化させ、地域との交流事業を実施し、豊かな心を育む。 ⑤生徒主体の学校行事を推進する。 ⑥家庭との連携を密にし、学校と家庭で一体となって生徒指導・教育相談を行う。特に、教育相談は専門機関と連携し、一人ひとりに寄り添った指導を充実させる。	①② ・評価「頭髪や身だしなみ時間を守って行動した」ポイントの向上 ・遅刻者数の減少 ③生徒表彰の実施 ④運動部・文化部ともに生徒主体の取組、地域との交流事業の実施、委員会活動の推進 ⑤生徒主体の文化祭・体育祭等の実施 ⑥専門機関(SC、SSW等)の活用				
4	【現状】 中学校、地域からの要望に応えることにより、本校への期待が高まっている。 【課題】 学校の情報を積極的に発信し、本校の魅力をアピールして地域の資源として位置付ける。	・本校の教育活動の情報発信を充実させ、魅力ある学校づくりの推進	①学校評議員会、学校評価懇話会の意見を学校経営に反映する。 ②学校ホームページ、「ふかこう通信」等を工夫し中学校や地域住民等への情報発信を強化する。 ③学校説明会、母校訪問、学習塾対象説明会等の実施により、本校の魅力をPRし、本校志願者の増加に繋げる。 ④学校ホームページ、一斉配信メールを利用し、保護者に学校の情報を提供する。 ⑤地域の施設に生徒を派遣し、交流を図る。	①学校経営へ意見の反映 ②ホームページアクセス数の向上 ③ ・学校説明会来場者数の増加 ・本校志望生徒倍率1.10以上 ④保護者の満足度の向上 ⑤地域との交流の推進				